



2007/08 WEEKLY BULLETIN

国際ロータリー第 2790 地区第 3 分区 B

市原ロータリークラブ会報

第 2137 回例会 2007年9月26日(水) SAA/川島会員 会報担当/菊地会員

例会場 五井グランドホテル 市原市五井 5584 - 1 事務局 TEL 0438-38-3535



点 鐘 市原 RC 会長 角谷修
ソング それでこそロータリー
四つのテスト唱和
なし

会長挨拶 市原 RC 会長 角谷修



皆さん こんにちは！

秋分も過ぎ日中の陽射しにも微かに秋の気配が感じられる昨日今日ですが、お元気ですか？ 昨日は福田新内閣が静かにスタートしました。一年前あれほど期待を持って迎えられた安倍政権が一年を経てこんな形でその職を去ることになるとは誰が想像したでしょうか？ 栄枯感哀は世のならいとは言え、この一年間 あまりの変わり様に驚いているのは私ばかりでしょうか？

翻って私達のロータリーの足元を見る時、果たして私達は先人達の掲げた高邁な理想を実現する為にどんな努力をしているのか？ その努力は充分なのか？ 100年を経て組織としてのロータリーは進化しているのか？ 改めて皆さんと考える時間が必要だと感じています。新しい100年はどんな100年になるのか？ 今こそ私達は先人達の目指した理念を信じ、希望を持って活動するロータリークラブにするために努力していきたいという願いを更に強く感じた一週間でした。

どうぞ皆様のご協力をお願いします。

幹事報告 幹事 斎藤栄志

千葉中央 RC 例会変更：10/16、18 時点鐘
地区大会登録料 5,000 円、晩餐会 7,000 円集金します

委員会報告 常澄親睦委員長

穂高連峰の旅行について：行程表と会費のご案内

卓話 山崎邦夫会員



「老いの埋み火」「雀色時」「忘れ得ぬ人々」

角谷さんは人使いがお上手。三ヶ月前の卓話の依頼で結婚式の祝辞を依頼され順番がなかなか来ない当人の様でした。又、先輩諸兄のお話は素晴らしく、だんだん痺れて参りました。そしたら先週齊藤先輩から“来週はお前さんだね”とプレッシャーがかかりました。

猛暑の夏が一段落。彼岸も過ぎると春は三寒四温でまいりますが、秋は足早です。ならい風が吹くと西向きの私の部屋の窓が茜色に染まり、やがて釣瓶落としの秋の夜は漆色になり京葉コンビナートの精留塔の灯りが輝き出す頃となりますと木枯らしの季節がやってきます。今日も一日が終わったなあと思うと吐息が漏れこし方を思い出します。

生きてきた道筋で“あの人に会わなかったらどうなったろう”と、そんな事を考えますと慄然とします。本当にお世話になって生かされてきた。私にとって、みんな“あの人”です。

反面教師も Ex) 鎌田正二氏 釣舟四郎氏 竹田富之助氏 評論家 伊藤肇氏 他多勢の方々“袖すりあうは大恩の始まり”

ご指名は見かけ倒しかもしれませんが、ドラッガー・ダニエルベル・ビルエモットでもなく、中小企業の親父の裸の私を話せという事であろうと思いますが、起承不転結、理路不整然、独断と偏見でお許しを頂きたく存じます。しかしながら与えられた私への時間を精一杯尽くすのが責務と義務であろうと思います。

糠漬けが好きな人に、キムチはついて行けません。どうぞその向きでない方はお聞き流して下さい。お願い致します。

入会歴 30 年 多謝 大先輩のユーモア ペースメリハリがあり、修羅場をくぐるのではなく継続の様な卓話は不可能。ご勘弁、ご勘弁。

ロータリーへの提言

齊藤先輩ご無礼ご寛恕の程を。義務出席 使用禁止

“ RI は君臨すれども統治せず ” 必要条件

“ どこで会っても やあとやおうよ 見つけた時にやおいと呼ぼうよ 遠い時には 手を振り合おうよ それでこそローローロータリー ”

RI 会長も RI 会長代理もガバナーもパストガバナーも友達だ!!! 地区大会で PG が自発的に指定席を立てホームクラブの席へお帰りになれば万雷の拍手はうけあいである。それでこそ drop your dignity である。ゲストを奉ることは止めよう。

とは申せども、ご高齢になったパストガバナー御夫妻が指定席に座り過ぎし日栄光の日々を話題として、一年にただ一度だけ至福の時を、お過ごしになるとすれば、私の提言は 100% 退けご無礼をお許し願わなくてはならない。これはサイレントマジョリティーからの発言である。ノイズ-YAMAZAKI

閑話休題、有るパストガバナーから聞いた話。

My と Our 草の根 雀色時となれば人生の最終コーナーである。

私自身高齢化 認識多いに進む

横井也有的狂歌 “ 又しても同じ噂に孫じまん達者じまんに若きしゃれ言 ”

出处進退 退会願望忍び寄る 今後の “ 生きざま ” 日々考える
萩原朔太郎氏の詩、志衰えた日には何を 白洲次郎の奥様。韋駄天のお正こと白洲正子に詠んだ詩。

こころざしおとろへし日は いかにかせましな

手にふるき筆をとりもち あたらしき紙をくりのべとほき日のうたのひとふし 情感のうせしなきがらしたためつつ誦しつ かかる日の日のくるるまで

この頃時世のことばの林を逍遥 その中に生き方の結晶がある

“ 願わくば花のもとにて春死なんその如月の望月のころ ” 西行

“ わが門弟子におきては、葬礼の儀式をととのうべからず。野に捨て獣にほどこすべし ” 一遍

“ 四十九年一睡の夢 一期の栄華一盃の酒 ” 謙信

“ おもしろきこともなき世をおもしろく ” 高杉晋作

“ 住みなすものは心なりけり ” 野村望東尼 “ おもしろいのう ” 高杉晋作

“ 生者は死者の為に煩わさるべからず ” 梅原竜三郎
すなわち葬儀をして欲しくないという事だ。正に同感。

老人の孤独 走りつつも行きどころなし 哀れ
わが身を考える時、意思決定不能に至れば人生の店じまいをしたい。しかしそれは思い通りになるか…神のみぞ知る。

・アメリカの社会学者 デイヴィッド・リースマン = 正に孤独 = 哀れ 『孤独な群集』日本語訳多し
松本重治編『現代文明論』(みすず書房、1969年)

・人気作家 ポール・オースター(1947年2月3日)の描く「内面の豊かな孤独」は日本でいえば、永井荷風の日記『断腸亭日乗』に似ている。

日本で多くのファンを持つ理由は、村上春樹の影響があると言われている。

老年を楽しむ = 楽しまなければならない。

生きてきた配当として

“ 今年かぎりとは紅葉を見歩く ” 杉田玄白

“ 日々是好日 ” 旅に読書に映画にゴルフ、そして晩酌
松山晴邦

“ 宵寝朝寝昼寝ものぐさ物わすれそれこそよけれ世にたらぬ身は ” 根岸鎮衛

“ 夢があらずマリヤと寝たる春の宵 ” 夢の中、夢の中…竹久夢二

あこがれの良寛

人生を楽しむようにたくさんの句がある

“ 月見とて 風はきよけしいざともに踊りあかさん
老いの思い出に ”

“きみにかくあひ見ることのうれしさもまださめやらぬゆめかとぞおもふ” 貞心
“ゆめのよにかつまどろみてゆめをまたかたるもゆめもそれがまにまに” 良寛

洋の東西を問わず、老いと想いは共通である
と、イギリスの作家ジョン・ゴールズワージー(1932年ノーベル文学賞受賞。国際ペンクラブ初代会長を務めた。)は『人生の小春日和』に書いている。
主人公ジョリオン・フォーサイトとは、“自分の金で一年でも一ヶ月でも、青春が買えればいいのだが”と言う。この小説は、良寛と重ね合わせられる。85歳の老人と30歳にもならぬアイリーンとの愛の物語である。と言っても5月からその年の暑い夏の日の午後迄である。愛の物語は、アイリーンが訪ねてくる約束の時刻の30分ほど前の老人の死によって終わる。哀れ。その僅か3・4ヶ月の間にフォーサイト老人は老いの苦しみと最後の手紙で語っている。
“老人は自分の気まぐれを捨てなくてはならない事を知っています。遅かれ早かれ生きるという気まぐれを捨てなくてはならないのですから。”

愛を込めて、ジョリオン・フォーサイト

こんな心の悩みを良寛だってもっていたに違いない
その詩が、“いついつとまちにしひとはきたりけりいまはあひ見てなにかおもはむ”

大俗物ながら、良寛の如く、春夏秋冬の自然に親しみ、花を愛で、童と遊び、一汁一菜の為の托鉢をし貞心尼との心の触れ合いを持ち、心豊かに生きる事を希求したい。もどきは有るが。
私の貞心尼は72歳の老妻である。

世の中には心を打つ言葉の数々が有る。
素晴らしい言葉を残した『岡倉天心』について話してみたい。“知性の死”といわれる岡倉天心の「戒告」には、心を奪われる。この様な文章を残して死ねたら本望だ。

「戒告」

私が死んだら 悲しみの鐘を鳴らすな、旗をたてるな。人里遠い岸辺、つもる松葉の下ふかく、ひっそりと埋めてくれ。あのひとの詩を私の胸に置いて。私の挽歌は鴉らにうたわせよ。もし碑を建てねばならぬとなら、いささかの水仙と、たぐいまれな芳香を放つ一本の梅を。さいわいにして、はるか遠い日、海もほのかに白む一夜、甘美な月の光をふむ、あのひとの足音の聞こえることもあるだろう。 1913年8月1日
インドの女性詩人、恋愛関係にあったプリヤンバダ・デーヴィーに宛てた時世の詩である。

人それぞれに本懐がある

私の友人で、世界的に高名な造形美術家 新宮 晋氏(運動公園の“風の記憶”)はライフワークとして、フランスのブルゴーニュにエコロジー村を創ると言う。パトロンはエルメス等フランスの有名な企業のオーナー達である。喝采を送りたい。私如きがその話を友人にしたら、普通の間人は普通に生きて普通に死ぬのが良いと教えられた。正に納得である。

RCに四つの言葉がある。生き方の原点ではなかるるか! ? 今を生きる事だ。それしか無い。
常々考えるのであるが、あなたが居られるから私があるの思想だ。慮りが人生だ。反省一人である。

結びに

色々とお話を致しましたが、良寛さんの残した言葉の端々にそして、仕草の中にも“無私”“超我”の考え方が汲み取れます。即ち、ロータリー精神と合い似通っていることが認識できます。

人は死と云うキャリアを持つ。不安がいっぱい。しかし老いは恐くない。ご近所の八十八歳の天寿の方の葬儀。一尺七寸の白い壺。ステンレスのトレイとスプーン。無機質な軽やかな響き。心配ご無用と聞こえてくる。その中で私は残された隠居の身を年寄り小町などと美酒を酌み交わしながらポジティブにスマートに生きる心づもりである。

合掌

ニコニコボックス

- ・ 山崎邦夫会員

今日の卓話にたくさんのギャラ有り難う御座いました。全部ニコニコさせていただきます。

- ・ 角谷修会長

山崎会員の卓話ありがとうございました。今日で5人の会員にお話いただきました。皆様の素晴らしい卓話に感謝申し上げます。

- ・ 小池清二会員

第一次白鳥ガバナーの最終事業である月信13号が作成出来、各クラブに配布された様です。皆様のご協力ありがとうございました。

- ・ 浜田国義会員

山崎先輩の人生話たっぷりと拝聴しました。ありがとうございました。

- ・ 始関信夫会員

人生の楽しみ方の話をもっと早く聞いていればと悔やみます。小生には配当がない様に思います。前段のお話はなぜか手の平が汗ばんでおりました。

- ・ 吉田茂雄会員

この度、五井駅東第一期造成工事を施工させて頂くことになりました。平成22年4月末の町開きまでの間何かとご迷惑をかけますが、ご支援の程宜しくお願い致します。

- ・ 若手一同より(高澤,常澄,行木,山本)

毎月の「言志録」勉強会ありがとうございます。今後も山崎さんの実学と合わせて楽しみにしております。

出席報告

前々回確定 75% 本日出席者 36 名
本日欠席者 9 名 本日出席率 80%